

第4回 摂食障害小児治療研修

後援：日本摂食症学会

1. 目的

本研修は、小児科医療/支援スタッフが、自信をもって摂食障害の診療に関われるようになることをを目指します。

2. 対象者

摂食障害小児の外来および入院治療を行っている施設の小児科の医療スタッフをメインターゲットとするが、他科の医療スタッフの参加も可能とする。（原則有資格者とする）

- 精神科、心療内科、内科、小児科、婦人科等で臨床に従事している医師
- 臨床心理士/公認心理師
- 看護師および保健師、作業療法士、精神保健福祉士、栄養士、チャイルド・ライフ・スペシャリスト等
- 教育機関において保健の指導にあたるもの
- 行政機関において精神保健業務に従事するもの

3. 研修期間

オンデマンド配信：令和8年6月15日（月）～7月19日（日）（約5週間）

ライブ配信（質疑応答）：令和8年7月12日（日）13:00～14:30

4. 研修主題

小児科医療スタッフ向けの摂食障害概論、摂食障害小児例の外来治療、入院治療、日々の看護

5. 課程内容

(時間)

- | | |
|-------------------------------|--------|
| 1. 小児科領域で対応する摂食症：概論 | (0.5) |
| 2. 摂食障害の小児科外来診療：治療契約から入院の同意まで | (0.5) |
| 3. 小児病棟における入院治療の実際 | (0.5) |
| 4. 児童精神科における治療－小児科からからの紹介後－ | (0.75) |
| 5. 日々の看護 | (0.75) |
| 6. 質疑応答（ライブ配信） | (2.0) |

合計 5 時間

6. 定員 300名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB 令和8年4月6日（月）～4月20日（月）

8. 受講料 5,000円

9. 会場 オンライン開催（ホスト：国立精神・神経医療研究センター）

10. その他

- 本研修の講演は令和6-7年度に開催された「摂食障害小児治療研修」の録画配信となります。
- 「6. 質疑応答」についてはライブ配信のみで、後日配信はありません。
- 本研修ではオンデマンド学習時に参照資料として「小児摂食症プライマリ診療の手引き」を読んでいただきます。https://edcenter.ncnp.go.jp/edportal_pro/pdf/medical_cooperation_05.pdf

第1回 発達障害者かかりつけ医研修

1. 目的

厚生労働省は各地域における発達障害の早期発見・早期支援のための体制整備及び適切な事業実施を推進するために、「かかりつけ医等発達障害対応力向上研修」の実施要綱を定め、平成28年度から各都道府県・指定都市において関係団体等と連携の下での研修の事業実施についての通知を発出した。

本研修は、各自治体にておこなわれていた「かかりつけ医等発達障害対応力向上研修」を国立精神・神経医療研究センターが直接行うものであり、一般小児科医・一般精神科医などがかかりつけ医として発達障害の診断・初期対応を行うことができるような知識を提供することを目的とする。

2. 対象者

各自治体において発達障害の診断・初期対応に関わる一般小児科医・一般精神科医。

※この研修は個人でお申込みいただく研修となります。詳細は募集要項をご覧ください。

3. 研修期間

ライブ配信：令和8年6月28日（日）

オンデマンド配信：研修後3週間程度オンデマンド配信する予定

※講師への質疑応答はライブ配信時のみ。

4. 研修主題

かかりつけ医が身につけておくべき発達障害に関する基礎的知識

5. 課程内容（予定）	(時間)
かかりつけ医が知っておくべき発達障害児・者の行政施策	(1.0)
ASDの病態・診断・治療	(1.0)
ADHDの病態・診断・治療	(1.0)
学習障害の病態・診断・治療	(1.0)
かかりつけ医が知っておくべき発達障害の社会的支援	(1.0)
かかりつけ医で発達障害診療を成立させるための診療システム	(1.0)
合計	6時間

6. 定員 200名（応募者多数の場合は選考することがあります）

7. 申込方法・期間 WEB 令和8年4月23日（木）～5月14日（木）

8. 受講料 無料

9. 会場 オンライン

※研修後、受講者氏名、勤務先名、勤務先住所・電話番号を明記した受講者名簿を、勤務先を管轄している自治体に提出することがございます。

第4回 精神保健医療福祉データ行政活用研修

1. 目的

精神保健医療福祉分野における公的データを活用して、都道府県、二次医療圏、市町村単位での根拠を持った現状把握とそのモニタリングを行うためのデータの見方について習得することを目的とします。

本研修は「医療計画」「障害福祉計画」の策定、また「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」を推進するための研修という位置づけです。

2. 対象者

各都道府県、政令指定都市、市区町村の精神保健福祉主管課担当者、医療政策主管課担当者

3. 研修期間

令和8年7月15日（水）

4. 研修主題

医療計画（精神疾患）や障害福祉計画等の現状と課題、地域課題について理解したうえで、精神保健医療福祉関係の公的データ（患者調査、NDBデータ、630調査等）の見方、またそのマップデータベースである地域精神保健医療福祉資源分析データベース（ReMHRAD）の見方と使い方等を学び、各自治体の実態把握とモニタリングをするためのスキルを習得する。

5. 課程内容（予定）

	(時間)
精神保健医療福祉に関する動向（医療計画、障害福祉計画等）	(1.0)
ロジックモデルとその活用	(1.0)
NDBデータとその活用について	(1.0)
630調査とその活用について	(1.0)
ReMHRADとその活用について	(1.0)
ワーク（計画立案・指標モニタリングに関する）	(1.5)

合計 6.5 時間

6. 定員 100名

7. 申込方法・期間 WEB 令和8年5月7日（木）～5月29日（金）

8. 受講料 5,000円

9. 会場 オンライン開催

第23回 摂食障害専門研修

後援：日本摂食症学会

1. 目的

摂食障害に関する専門的な知識および実践的技術の修得を目的とします。

本研修により摂食障害の診療/支援チームで中心的な役割を果たせる治療者の養成を目指します。

2. 対象者

病院、保健所、精神保健福祉センター等に勤務し、摂食障害に関心を有する医療従事者

- ・精神科、心療内科、一般内科、小児科で臨床に従事している医師
- ・臨床心理士/公認心理師
- ・看護師および保健師、作業療法士、精神保健福祉士、栄養士等

3. 研修期間

オンデマンド配信：令和8年7月27日（月）～9月6日（日）（約6週間）

ライブ配信：令和8年8月29日（土）9:30～15:30（4.5時間）

4. 研修主題

- ・摂食障害の病態と治療に関する最新の知見
- ・臨床現場を念頭に置いた実践的スキルの向上

5. 課程内容	(時間)
1. 摂食障害の疫学・病態・治療概論	(1.5)
2. 初期対応と外来診療	(1.5)
3. 入院治療	(1.5)
4. 身体合併症・身体的管理	(1.5)
5. 精神障害・パーソナリティー障害を合併する摂食障害	(1.5)
6. 小児例の初期対応と診療	(1.5)
7. ガイデッド・セルフヘルプ	(1.5)
8. 家族支援と家族療法	(1.5)
9. 心理教育（ライブ配信）	(1.5)
10. 症例検討（ライブ配信）	(1.5)
11. 当事者の話を聞く（ライブ配信）	(1.5)

合計 16.5 時間

6. 定員 100名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB 令和8年5月7日（木）～5月26日（火）

8. 受講料 30,000円

9. 会場 オンライン開催（ホスト：国立精神・神経医療研究センター）

第7回 摂食障害入院治療研修

～入院治療の留意点とコツ～

後援：日本摂食症学会

1. 目的

本研修は、摂食障害の入院治療を行っている施設の入院治療の質を担保することを目指します。

2. 対象者

摂食障害入院治療を実施している施設の医療関係者（原則有資格者とする）

- 精神科、心療内科、内科、小児科、婦人科等で臨床に従事している医師
- 臨床心理士/公認心理師
- 看護師および保健師、作業療法士、精神保健福祉士、栄養士等

3. 研修期間

オンデマンド配信：令和8年8月17日（月）～9月19日（土）（約5週間）

ライブ配信（質疑応答）：令和8年9月12日（土）13:00～14:30（1.5時間）

4. 研修主題

摂食障害患者への入院プログラムの解説、職種別の摂食障害患者への関わり方、
入退院に伴う地域医療連携の構築

5. 課程内容：(時間)

1. 摂食障害診療総論	(1.0)
2. 入院治療プログラムの解説	(0.75)
3. 看護師の関わり方	(0.5)
4. 心理士の関わり方	(0.75)
5. 栄養士の関わり方	(0.5)
6. 地域医療連携の構築	(0.5)
7. 質疑応答（ライブ配信）	(1.5)

合計 5.5 時間

6. 定員 300名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB 令和8年6月8日（月）～6月22日（月）

8. 受講料 5,000円

9. 会場 オンライン開催（ホスト：国立精神・神経医療研究センター）

10. その他

- 令和4-7年度に開催された「摂食障害入院治療研修～入院治療の留意点とコツ～」の録画配信となります。
- 「7. 質疑応答」についてはライブ配信のみで、後日配信はありません。

第5回統合失調症の標準治療研修

1. 目的

本研修は、統合失調症の治療において専門的な知識と技術を習得し、合わせて「統合失調症薬物治療ガイドライン2022」（日本神経精神薬理学会、日本臨床精神薬理学会作成）、「精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイド」「統合失調症に合併する肥満・糖尿病の予防ガイド」（日本精神神経学会作成）に基づいた治療スキルを実地に応用できる人材を育成するために実施されます。午前は講義にて基本的な知識を習得して、午後は症例ディスカッションを行い、治療技術の向上を目指す研修を行います。

2. 対象者

病院、診療所、保健所、精神保健福祉センター等に勤務し、統合失調症に関心を有する医療従事者(医師、歯科医師、看護師、保健師、助産師、薬剤師、公認心理師、臨床心理士、作業療法士、理学療法士、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、義肢装具士、救急救命士、言語聴覚士、管理栄養士、精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、児童福祉司、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、鍼灸師などの原則医療系の有資格者)。

3. 研修期間

令和8年8月30日（日）

4. 研修主題

統合失調症の標準的治療の基本的な知識及び治療技術の習得

5. 課程内容 (時間)

(1) 標準治療の意義	(0.5)
(2) 統合失調症の標準治療の講義	(2.0)
(3) 統合失調症症例ディスカッション1	(1.0)
(4) 統合失調症症例ディスカッション2	(1.0)
(5) まとめ・質疑応答	(0.5)

合計 5時間

6. 定員 120名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB 令和8年6月1日（月）～7月17日（金）

8. 受講料 10,000円

9. 会場 オンライン開催

第39回 薬物依存臨床医師研修

第27回 薬物依存臨床看護等研修

1. 目的

国内外の薬物乱用・依存をめぐる情勢を考慮すると、我が国の精神医療、精神保健の中での薬物依存問題はますます重要性を増していると考えられる。そのため、薬物依存に关心を持つ医師、看護師等を対象に、薬物依存の概念・現状理解、基礎知識、臨床的対応法にわたる研修を行い、薬物依存の診断、治療及び予防にかかる医療関係者を増やすことを目的とする。

2. 対象者

精神科病院、精神保健福祉センター等に勤務する医師、看護師等

3. 研修期間

令和8年9月2日（水）から令和8年9月4日（金）まで

4. 研修主題

薬物依存症概念の理解と薬物依存症に対する臨床的対応の普及

5. 課程内容

(時間)

- | | |
|-----------------------------|-------|
| (1) 薬物依存に関する基礎知識と現状把握 | (1.5) |
| (2) 薬物依存の形成機序（精神依存・身体依存） | (1.5) |
| (3) 覚せい剤精神疾患の生物学的機序 | (1.5) |
| (4) 覚せい剤依存・精神病の臨床 | (1.5) |
| (5) ベンゾジアゼピン系薬物の基礎と臨床 | (1.5) |
| (6) 大麻の薬理作用及び行動毒性 | (1.5) |
| (7) 女性薬物依存症者の臨床的特徴 | (1.5) |
| (8) 青少年における薬物乱用の特徴と乱用防止のあり方 | (1.5) |
| (9) 医療施設における薬物依存の治療 | (3.0) |
| (10) 精神保健福祉センターにおける取り組み | (1.5) |
| (11) 全国の民間リハビリ施設の現状と課題 | (1.5) |
| (12) 回復者による自助グループ活動 | (1.5) |
| (13) 薬物依存者家族の支援について | (1.5) |

合計 21 時間

6. 定員 医師50名／看護師等50名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB 令和8年6月15日（月）～7月6日（月）

8. 受講料 30,000円

9. 会場 オンライン開催

第5回うつ病の標準治療研修

1. 目的

本研修は、うつ病の治療において専門的な知識と技術を習得し、合わせて「うつ病治療ガイドライン」（日本うつ病学会作成）、「精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイド」（日本精神神経学会作成）に基づいた治療スキルを実地に応用できる人材を育成するため実施されます。午前は講義にて基本的な知識を習得して、午後は症例ディスカッションを行い、治療技術の向上を目指す研修を行います。

2. 対象者

病院、診療所、保健所、精神保健福祉センター等に勤務し、うつ病に関心を有する医療従事者(医師、歯科医師、看護師、保健師、助産師、薬剤師、公認心理師、臨床心理士、作業療法士、理学療法士、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、義肢装具士、救急救命士、言語聴覚士、管理栄養士、精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、児童福祉司、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、鍼灸師などの原則医療系の有資格者)。

3. 研修期間

令和8年9月13日（日）

4. 研修主題

うつ病の標準的治療の基本的な知識及び治療技術の習得

5. 課程内容 (時間)

(1) 標準治療の意義	(0.5)
(2) うつ病の標準治療の講義	(2.0)
(3) うつ病症例ディスカッション1	(1.0)
(4) うつ病症症例ディスカッション2	(1.0)
(5) まとめ・質疑応答	(0.5)

合計 5時間

6. 定員 120名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB 令和8年6月15日（月）～7月31日（金）

8. 受講料 10,000円

9. 会場 オンライン開催

第16回 災害時PFAと心理対応研修

1. 目的

本研修は、自然災害等の災害時に必要とされる心のケア（社会心理対応）についての基本的な知識を習得し、あわせてWHO等の国際機関が開発した「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処置:PFA）」に基づいた被災者対応のスキルを実地に応用できる人材を育成するために実施されます。

第1日目にはPFAの実技研修を行います。20-30名程度のグループに分かれ、ロールプレイ、コミュニケーションスキル訓練、シナリオに基づいた討論などを織り交ぜて、実際の対応能力の向上を目的とします。また、第2日目にはオンラインにて、トラウマと悲嘆を含む心のケアの概論、子どもの反応についての講義を行うとともに、軽度の精神症状が残った人々の心理的回復を促すためのリカバリースキルについても研修を行います。

PFAは災害だけではなく、犯罪被害、事故などのトラウマ被害者に対しても実施できる、汎用性の高いスキルです。この機会を積極的に活用され、災害に備えるとともに日々の臨床にお役に立て頂ければ幸いです。関係者の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

2. 対象者

自然災害、甚大事故、犯罪、テロ等のトラウマ的出来事に際して、実際に被災者、被害者へのこころのケア対応にあたる可能性のある、精神保健医療福祉業務に従事する医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、公認心理師、臨床心理士、行政職員、教育関係者等。

3. 研修期間

1日目（対面）：令和8年10月6日（火）

2日目（オンライン）：令和8年10月14日（水）

4. 研修主題

「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処置:PFA）」に関する基本技能を習得する。またトラウマ、悲嘆、子どもの反応を含む、災害時の心理的反応を理解し、基本的な対応スキルを習得する。

5. 課程内容

	(時間)
PFAの定義と枠組み	(2.0)
PFAの活動原則	(1.5)
PFAロールプレイ	(1.5)
セルフケアとチームのケア	(1.0)
災害と心のケア概論	(1.5)
子どもの反応	(1.5)
心理回復スキル	(1.5)
	合計 10.5 時間

6. 定員 50名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB（所属長の推薦書が必要です）令和8年7月10日（金）～7月31日（金） ＊申込方法詳細は、募集要項をご確認ください。

8. 受講料 20,000円

9. 会場 1日目：対面（国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール） 2日目：オンライン

令和8年度PTSD対策専門研修 A. 通常コース

1. 目的

本研修は、災害・事故・犯罪・児童虐待などのトラウマ的体験をされた方々に対して、基本的な精神保健医療対応（こころのケア）を提供する人材を確保するために実施されます。精神保健医療従事者等に対し、トラウマに対するこころのケアについての必要な知識を系統的に習得し、さらに実際のスキルを向上させるような内容が工夫されています。トラウマ反応の考え方、診断評価方法、初期対応、治療対応の基本を習得して頂きます。

この機会を積極的に活用され、日々の臨床にお役に立てて頂ければ幸いです。関係者の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

2. 対象者

精神保健医療福祉業務に従事する医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、社会福祉士、作業療法士、公認心理師、臨床心理士の資格を有する方。または公的機関や教育機関に勤務し、精神保健医療福祉業務に従事する方。

3. 研修期間

令和8年10月～11月頃（1日間）

*A.通常コースは2回開催します。

*詳細は9月上旬に当センターホームページにてお知らせいたします。

4. 研修主題

災害被災者、犯罪・事故被害者、災害遺族、被虐待児童等、トラウマに対するこころのケアが必要な方に対応できる人材を確保するため、精神保健医療従事者等に対しトラウマに対するこころのケアにおいて必要な知識を系統的に習得する。

5. 課程内容

(時間)

トラウマの基本対応 (1.5)

トラウマの概念とPTSD診断 (1.5)

PTSD治療 (1.5)

子どものトラウマ (1.5)

合計 6時間

6. 定員 200名（予定）※応募者多数の場合は選考

7. 申込方法・期間 WEB（所属長の推薦書が必要です）

8. 受講料 10,000円（予定）

9. 会場 オンライン（予定）

第18回 認知行動療法の手法を活用した 薬物依存症に対する集団療法研修

本研修は平成28年度より新設された「依存症集団療法」の施設基準に定められている研修会です。なお、診療などのやむを得ない理由で最終日ご受講できない場合でも、「依存症に対する集団療法に係る研修」の要件を満たすため修了証書を発行します。最終日ご受講できない場合は、WEB申し込みの際に「特別連絡欄」にて予めその旨お知らせください。

1. 目的

薬物依存症者に対する積極的な援助ができるようになるとともに、Matrix Modelを参考にした包括的外来薬物依存症治療プログラムを実施するための基礎を身につけるとともに、薬物再乱用防止プログラムを実施できる援助者を増やし、国内各地にプログラムを普及させることが目的である。なお、本研修は、診療報酬における「依存症集団療法」算定における施設基準資格者養成研修でもある。

2. 対象者

医療機関、行政機関、司法機関、民間回復施設等で薬物依存症者の援助に従事している、医師、看護師、作業療法士、公認心理師、臨床心理士、精神保健福祉士等。

3. 研修期間

令和8年11月9日（月）から令和8年11月11日（水）まで

4. 研修主題

薬物依存症者の臨床的特徴と治療に関するエビデンスを理解し、直面化を避けた動機付け面接の重要性を理解し、薬物依存症に対する集団認知行動療法のファシリテーションの実際を学ぶとともに、家族支援への理解を深める。なお、当研修と当センター精神保健研究所薬物依存研究部主催による「薬物依存臨床医師・看護等研修」の両方を終了した者に対しては、薬物依存研究部より「薬物依存専門課程修了認定書」を授与する。

5. 課程内容

(時間)

- | | |
|------------------------------|-------|
| (1) 薬物乱用の実態と乱用・依存・中毒概念の理解 | (1.0) |
| (2) 薬物依存症患者への対応の基礎 | (1.0) |
| (3) SMARPP の理念と意義 | (1.5) |
| (4) SMARPP の実際 | (1.5) |
| (5) 薬物依存症に対する入院治療 | (1.5) |
| (6) 薬物依存症からの回復のための社会資源 | (1.0) |
| (7) 薬物依存臨床における司法的問題 | (1.0) |
| (8) ビデオ学習・デモセッション | (3.0) |
| (9) 再乱用防止プログラムのグループワーク | (3.0) |
| (10) 薬物依存症と性的マイノリティおよびHIV感染 | (1.0) |
| (11) 動機付け面接の基礎 | (2.0) |
| (12) 依存者家族の支援プログラム CRAFT の基礎 | (1.5) |
| (13) 総合討議 | (1.0) |

合計 20.0 時間

6. 定員 60名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB 令和8年8月24日（月）～9月14日（月）

8. 受講料 36,000円

9. 会場 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第5回 摂食障害小児治療研修

後援：日本摂食症学会

1. 目的

本研修は、小児科医療/支援スタッフが、自信をもって摂食障害の診療に関われるようになることを目指します。

2. 対象者

摂食障害小児の外来および入院治療を行っている施設の小児科の医療スタッフをメインターゲットとするが、他科の医療スタッフの参加も可能とする。（原則有資格者とする）

- 精神科、心療内科、内科、小児科、婦人科等で臨床に従事している医師
- 臨床心理士/公認心理師
- 看護師および保健師、作業療法士、精神保健福祉士、栄養士、チャイルド・ライフ・スペシャリスト等
- 教育機関において保健の指導にあたるもの
- 行政機関において精神保健業務に従事するもの

3. 研修期間

オンデマンド配信：令和8年12月頃開催予定（約5週間）

ライブ配信（質疑応答）：令和8年12月開催予定（1.5時間）

※詳細は8月以降に当センターホームページにてお知らせいたします。

4. 研修主題

小児科医療スタッフ向けの摂食障害概論、摂食障害小児例の外来・入院治療の実践的知識

5. 課程内容

(時間)

- | | |
|-------------------------------|--------|
| 1. 小児科領域で対応する摂食症：概論 | (0.5) |
| 2. 摂食障害の小児科外来診療：治療契約から入院の同意まで | (0.5) |
| 3. 小児病棟における入院治療の実際 | (0.5) |
| 4. 児童精神科における治療－小児科からからの紹介後－ | (0.75) |
| 5. 日々の看護 | (0.75) |
| 6. 質疑応答（ライブ配信） | (2.0) |

合計 5時間

6. 定員 300名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB

8. 受講料 5,000円

9. 会場 オンライン開催（ホスト：国立精神・神経医療研究センター）

10. その他

- 本研修の講演は令和6-7年度に開催された「摂食障害小児治療研修」の録画配信となります。
- 「6.質疑応答」についてはライブ配信のみで、後日配信はありません。
- 本研修ではオンデマンド学習時に参照資料として「小児摂食症プライマリ診療の手引き」を読んでいただきます。https://edcenter.ncnp.go.jp/edportal_pro/pdf/medical_cooperation_05.pdf

令和8年度PTSD対策専門研修 B. 専門コース

1. 目的

本研修は、災害・事故・犯罪、児童虐待などのトラウマ的体験をされた方々で、何らかの精神症状や社会心理的困難を持っている方々に対して、適切な専門的医療・社会心理対応ができる人材を確保するために実施されます。そのために、認知行動療法（持続エクスポートージャー療法）による実際の治療事例を呈示し、患者の回復の可能性と経路を学習し、そうした回復に向けての治療と支援のあり方についての事例検討を行います。また、犯罪被害者支援を中心としたケースワーク、診断評価、最新の生物学的基盤、薬物療法などについての講義も行います。

この機会を積極的に活用され、日々の臨床にお役に立てて頂ければ幸いです。関係者の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

2. 対象者

症例呈示のため、職業上守秘義務を持っている精神保健医療従事者（医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、社会福祉士、作業療法士、公認心理師、臨床心理士）。

過去に PTSD 研修 A.通常コースを受講していること。

3. 研修期間

令和8年12月～令和9年1月頃（2日間）

*B.専門コースは2回開催します。研修内容は同一です。

*詳細は9月上旬に当センターホームページにてお知らせいたします。

4. 研修主題

精神保健福祉センター、病院、保健所等において、PTSDに関する専門家が必要とされていることを踏まえ、精神保健医療従事者等に対し、最先端の専門的知識あるいは技術の習得をさせ、有効かつ安全に治療を行うことができる人材を養成する。

5. 課程内容

	(時間)
PTSDの診断と評価	(1.5)
トラウマ後の心理社会支援	(1.5)
PTSDの神経科学と薬物療法	(1.5)
PTSDのソーシャルワーク	(1.5)
PTSDの心理療法各論	(3.0)
複雑性PTSD	(1.5)
複雑性悲嘆の心理療法	(1.5)
合計	12 時間

6. 定員

オンラインの場合：150名（予定）／対面の場合：60名（予定）

※応募者多数の場合は選考

7. 申込方法・期間

WEB（所属長の推薦書が必要です）

8. 受講料

20,000円（予定）

9. 会場

オンラインまたは 国立精神・神経医療研究センター（予定）

※2回ともオンライン開催となる可能性もございます

第8回 摂食障害入院治療研修

～入院治療の留意点とコツ～

後援：日本摂食症学会

1. 目的

本研修は、摂食障害の入院治療を行っている施設の入院治療の質を担保することを目指します。

2. 対象者

摂食障害入院治療を実施している施設の医療関係者（原則有資格者とする）

- 精神科、心療内科、内科、小児科、婦人科等で臨床に従事している医師
- 臨床心理士/公認心理師
- 看護師および保健師、作業療法士、精神保健福祉士、栄養士等

3. 研修期間

オンデマンド配信：令和9年1月～2月頃開催予定（約5週間）

ライブ配信+質疑応答：令和9年1月開催予定(1.5時間)

※詳細は8月以降に当センターホームページにてお知らせいたします。

4. 研修主題

摂食障害患者への入院プログラムの解説、職種別の摂食障害患者への関わり方、
入退院に伴う地域医療連携の構築

5. 課程内容

(時間)

- | | |
|-----------------|--------|
| 1. 摂食障害診療総論 | (1.0) |
| 2. 入院治療プログラムの解説 | (0.75) |
| 3. 看護師の関わり方 | (0.5) |
| 4. 心理士の関わり方 | (0.75) |
| 5. 栄養士の関わり方 | (0.5) |
| 6. 地域医療連携の構築 | (0.5) |
| 7. 質疑応答（ライブ配信） | (1.5) |

合計 5.5 時間

6. 定員 300名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB

8. 受講料 5,000円

9. 会場 オンライン開催（ホスト：国立精神・神経医療研究センター）

10. その他

- 本研修の講演は令和4-7年度に開催された「摂食障害入院治療研修～入院治療の留意点とコツ～」の録画配信となります。
- 「7. 質疑応答」についてはライブ配信のみで、後日配信はありません。

令和8年度P T S D対策専門研修 C. 犯罪・性犯罪被害者コース

1. 目的

本研修は、犯罪・性犯罪被害を受けた方々に対して、心理社会的支援・治療を提供する人材を確保するために実施されます。精神保健医療従事者等に対し、こうした対応のために必要な知識を系統的に習得し、さらに実際のスキルを向上させるような内容が工夫されています。

この機会を積極的に活用され、日々の臨床にお役に立てて頂ければ幸いです。関係者の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

2. 対象者

精神保健医療福祉業務に従事する医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、社会福祉士、作業療法士、公認心理師、臨床心理士の資格を有する方。または公的機関や教育機関に勤務し、精神保健医療福祉業務に従事する方。

3. 研修期間

令和9年1月～2月頃（2日間）

*詳細は9月上旬に当センターホームページにてお知らせいたします。

4. 研修主題

犯罪・性犯罪被害者への適切な対応を行うために必要な専門的知識と心理社会的支援・治療対応について習得する。

5. 課程内容

(時間)

犯罪被害者のメンタルヘルスとケア・支援・行政制度	(1.5)
犯罪被害者支援	(1.5)
虐待を受けた子どもの治療	(1.5)
犯罪被害者に係る司法制度	(1.5)
子どもの性暴力被害者のメンタルヘルス・治療・対応	(1.5)
性暴力被害者への治療	(1.5)
犯罪被害者遺族の心理・ケア・治療	(1.5)
犯罪被害者支援と司法	(1.5)

合計 12 時間

6. 定員

オンラインの場合：300名（予定）

*応募者多数の場合は選考

7. 申込方法・期間

WEB（所属長の推薦書が必要です）

8. 受講料

20,000円（予定）

9. 会場

オンライン（予定）

第6回 精神科救急医療体制整備研修

1. 目的

精神科救急医療体制整備事業の現状と課題について理解し、実効性を持ったモニタリングをするための知識と技術を習得することを目的として実施します。

本研修は、精神科救急医療体制整備事業および精神障害にも対応した地域包括ケア構築推進事業の支援という位置づけでの研修になります。

2. 対象者

- ・都道府県（指定都市）精神科救急医療体制整備事業担当者
 - ・都道府県 精神医療相談事業（精神医療相談窓口及び精神科救急情報センター）相談担当者
- ※都道府県担当者様が指定都市も代表して参加していただくという形式でも差支えありません。
※原則行政職員ですが、精神科救急体制整備事業に参画している医療機関も参加できます。

3. 研修期間

令和9年2月13日（土）

4. 研修主題

精神科救急医療体制整備事業の現状と課題について理解したうえで、精神科救急医療体制整備に関する課題やデータの見方、ReMHRAD の見方と使い方等を学び、各自治体の精神科救急体制整備に係る施策の立案やモニタリングのためのスキルを習得する。

5. 課程内容

	(時間)
精神科救急医療体制整備事業の概要調査について	(0.25)
精神科救急医療体制整備事業の現状と課題について	(0.5)
各自治体の精神科救急医療体制に関するデータの見方と使い方	(1.0)
各自治体の精神科救急医療体制整備事業の現状と課題等に関するグループワーク	(3.0)
	合計 4.75 時間

6. 定員 60名

7. 申込方法・期間 WEB 令和8年11月16日（月）～12月21日（月）

8. 受講料 無料

9. 会場 オンライン